東日本大震災
被災者支援 活動レポート

2011年3月――2016年3月

ジョイセフ
JOICFP
途上国の妊産婦と女性を守る

東北支援のあゆみ ―― 2

支援の内容 ―― 3～12

❶ 緊急支援物資の配給 ―― 3

❷ケショ（義援金）の給付 ―― 4

❸ 家族計画サービスの実施 ―― 4

❹ 助産師支援 ―― 5

助産師さんが思うこと ―― 6

❺ リフレッシュ・ママクラス ―― 7

❻ ジョイセフ・カレッジ TOHOKU ―― 9

“動きだした受講生たち” ―― 10

❼ MOM meets MOM in TOHOKU ―― 11

❽ 東北支援の経験をシェアする ―― 12

ママたち（受益者）の声 ―― 13

つながる支援の輪 ―― 15

ジョイセフが学んだこと ―― 16

支援企業・団体 ―― 17

収支報告 ―― 18

東北支援のあゆみ

緊急支援物資の配給 P.3

ケショ（義援金）の給付 ケショ受給者へのサポート P.4

家族計画サービスの実施 P.4

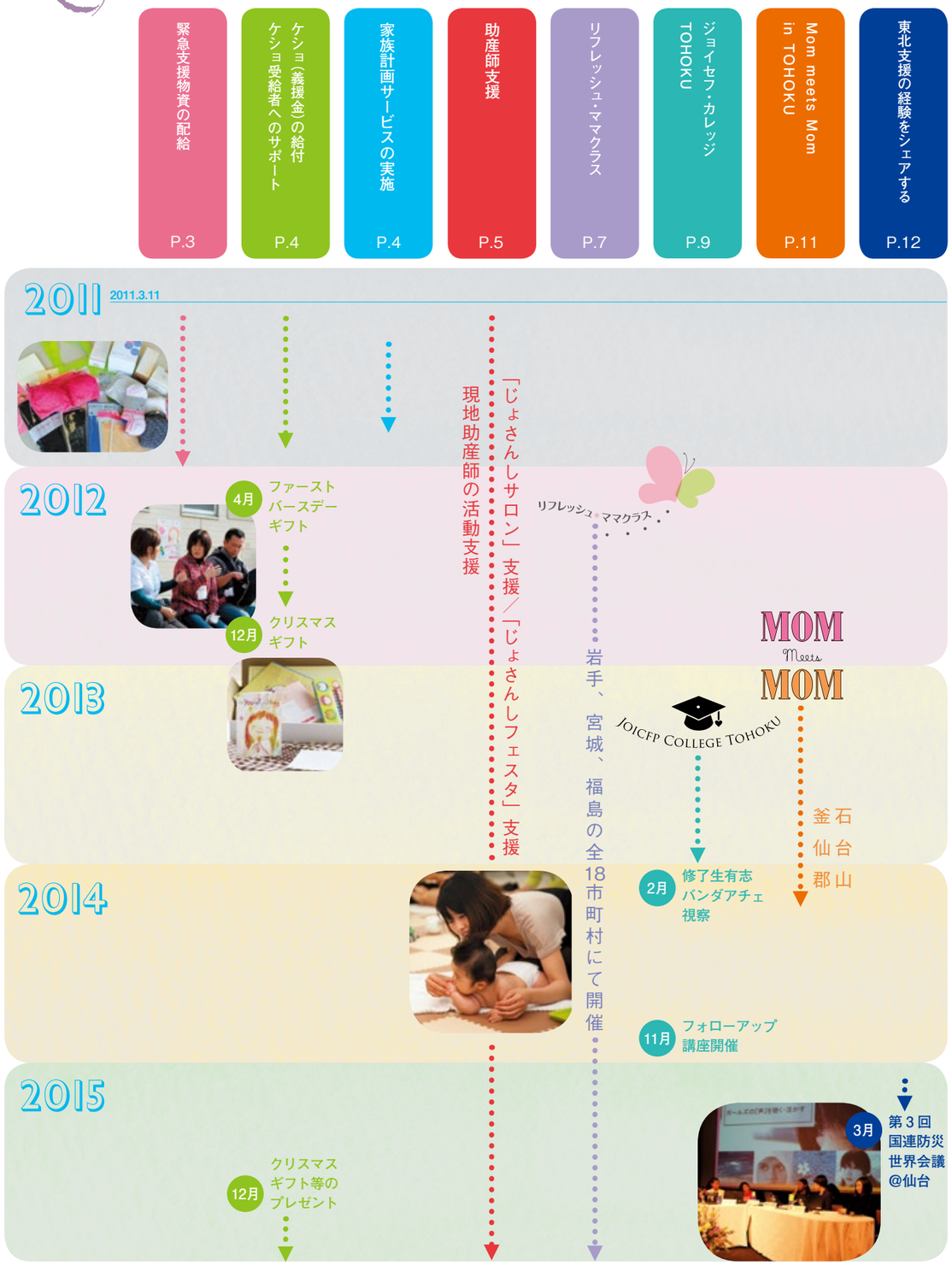
助産師支援 P.5

リフレッシュ・ママクラス P.7

ジョイセフ・カレッジ TOHOKU P.9

Mom meets Mom in TOHOKU P.11

東北支援の経験をシェアする P.12



支援 1 緊急支援物資の配給

女性、妊産婦、赤ちゃんのための緊急物資を支援

特に物資支援のニーズが高い震災直後から５月末までに、50 社を超える企業の無償協力を得て、合計 50 トン以上の緊急物資を女性一人ひとりに直接届ける工夫をして支援を行いました。

また、国連人口基金（UNFPA）の委託を受け、女性が必要とする生活物資に配慮した支援キット 5000 個の製作配付事業を実施しました。避難所や在宅避難している女性のほか、義援金の受給産婦にも直接配りました。

同時に、被災各県の助産師による被災妊産婦に対するケアやカウンセリング活動の諸経費などの補助を行いました。岩手・宮城・福島の３県において、684 カ所の避難所と自宅を訪問し、2896 件のカウンセリングを実施しました。

- プロジェクト期間 ・・・ 2011年3月～2011年12月
- 対象地域 ・・・・・・・・ 岩手県、宮城県、福島県、茨城県
- 支援対象 ・・・・・・・・ 被災地の女性約1300人
- 活動目的 ・・・・・・・・ 被災した母子や妊婦、女性に必要な物資を届ける
- 協力機関 ・・・・・・・・ 日本助産師会、日本家族計画協会、オックスファムジャパン、国連人口基金（UNFPA）、企業（50社以上）等

本当に必要な物資をママたちの手元に届ける

衣類（下着、靴下）
マタニティ用品
生理用品
紙おむつ
離乳食
化粧品
洗髪用品など
（一部）

アレルギー対応の離乳食、避難所で使える授乳服やおもちゃ、絵本などのほか、防犯用ホイッスルやブザー、被災地で女性が健康に過ごすための工夫をまとめた冊子も配布しました。

たくさんのママたちに届けたい！

在宅被災者など、避難所ルートでカバーできない母子に必要物資を届けるため、現地の助産師会と共催して「母と子の元気市」を宮城県・多賀城市と亘理郡山元町で開催、約1300 人に提供。物資はすべて新品に限定、本人が自由に物を選べるよう工夫しました。

避難所や在宅被災者を訪問する現地助産師たち

避難所生活を長く続けている女性・妊産婦に対し、物資支援のほか精神的な支援も実施。また、避難所から姿を消した在宅被災者にも支援物資を提供すると共に、心のケアやカウンセリングを行いました。ママにとって助産師の存在は精神的・身体的に大きな支えとなっています。

乳幼児健診の再開

自治体が実施する乳幼児健診に必要な資機材と教材などの物資を支援。

支援 2 「ケショ」（義援金）の給付

義援金（1 人 5 万円）を被災した産婦 2403 人に直接支給

家屋が全壊・半壊等の一定の条件を満たすか、または福島原発から 20 キロ以内の警戒区域に住んでいて、2011 年３月１日以降に出産した妊産婦を対象に、１人あたり５万円の義援金を支給しました。

一般的に義援金は世帯主名義の口座に送られますが、ジョイセフは「妊産婦の口座」に直接振り込むことを原則としました。このルールにより、初めて自分の口座を開設したママもたくさんいました。

- プロジェクト期間 ・・・ 2011年3月～2011年11月
- 対象地域 ・・・・・・・・ 岩手県、宮城県、福島県
- 給付人数 ・・・・・・・・ 被災地の産婦2403人
- 活動目的 ・・・・・・・・ 予想もつかない困難な時期に出産を迎えた被災女性にエールを送ると共に、できる限り現金を送り、女性がわずかでも自分のお金を持ち、自分の意志と判断で使途を決めることで自信に繋がることを期待する
- 連携機関 ・・・・・・・・ 岩手県、宮城県、福島県内の各自治体、および関連諸団体

「ケショ」はスワヒリ語で「あした」という意味

お母さんと生まれたばかりの赤ちゃんにとって、一日一日がよりよい「あした」になりますように…との思いで名付けました。

ファースト・バースデー・ギフトプロジェクト＆クリスマス・ギフトプロジェクトを実施

2012 年度は、赤ちゃんが１歳を迎える月に合わせ、絵本『ママ Mamiversary』（主婦の友社）や世界各地のママたちから寄せられたお祝いメッセージ、お絵描きセットなどを詰めたギフト、2015 年にはクリスマス・ギフトを贈りました。

1749組の母子にプレゼント

支援 3 家族計画サービスの実施

合計 6984 サイクルのピルと 6000 ダースのコンドームを提供

望まない妊娠による被災者の負担を回避するべく、姉妹団体である日本家族計画協会との連携・協力のもと、「女性のための安心ホットライン」を開設、２万枚のカード、必要に応じ緊急避妊ピル、さらに経口避妊薬（OC）とコンドームも広く配付しました。

コンドームは緊急物資支援で提供した「女性支援キット」に入れて配付。

- プロジェクト期間 ・・・ 2011年5月～2011年10月
- 対象地域 ・・・・・・・・ 岩手県、宮城県、福島県、茨城県
- 支援対象 ・・・・・・・・ 対象地域の女性約10000人
- 活動目的 ・・・・・・・・ 望まない妊娠による被災者の負担を回避する
- 協力機関・専門家 ・・・ 日本家族計画協会に協力する産婦人科医（31名）、（株）ジェクス（コンドーム提供）

支援4 助産師支援

女性の身体と心に関する専門家である助産師は、産婦人科医の少ない東北被災地において妊娠・出産・育児のケアだけでなく、多くのストレスと向き合うママたちを心身の両面から支えてきました。ジョイセフは岩手、宮城、福島の３県において、助産師による家庭（避難所・仮設住宅を含む）訪問活動と、助産院における妊産婦の育児相談の費用負担という２つの支援を主に実施。震災直後から約１年間にわたり被災妊産婦に対し684回の家庭訪問と2177回の助産師によるケア・カウンセリング活動を実施しました。

また、2013年度からは、震災被災者や福島原発による事故の避難者などが多く移り住む宮城県において、育児不安が高まりやすい生後１年未満の新生児を持つママを対象に、ママが集う場所を作り、孤立解消と育児についての不安を取り除くため「じょさんしサロン」事業を強化（計24回）。宮城県助産師会と共に、「みやぎ開業助産師MAP」の制作、WEBサイトやリーフレットの刷新等、被災したママと子どもの心と身体のケアを継続的に実施する体制作りを共同で行いました。また、助産師活動の広報イベント「じょさんしフェスタ」には、延べ約200人のママとその家族が参加しました。

- プロジェクト期間 ・・・ 2011年3月～2012年4月（ケア・カウンセリング活動支援）
  2013年4月～2016年3月（「じょさんしサロン」「じょさんしフェスタ」活動支援）
- 対象地域 ・・・・・・・・ 岩手県、宮城県、福島県
- 支援対象 ・・・・・・・・ 助産師とそのサービス対象である乳幼児を養育中の母親と妊婦
- 活動目的 ・・・・・・・・ 現地助産師の活動をバックアップすることにより、被災妊産婦への支援を実施すると共に、母親と妊婦が集う場所を作り、母親と妊婦の孤立解消と育児に関する不安を取り除く
- 連携機関 ・・・・・・・・ 宮城県助産師会、岩手県助産師会、福島県助産師会

訪問活動
（女性と妊産婦のケア、健診、カウンセリング）

現地の助産師さんのネットーワークを通じて、家庭や避難所を訪問し、おっぱいマッサージやベビーマッサージなどを実施。妊娠・出産・育児のケアだけでなく、多くのストレスを向き合う妊産婦を支えました。

「じょさんしサロン」で大人気のベビーマッサージ

ベビーマッサージは赤ちゃんもママも笑顔になれる幸せなひととき。ママ同士の会話も自然に生まれます。その後はグループに分かれて母乳・育児相談会。口コミで評判を呼び、募集時にはすぐ定員に達します。

「じょさんしフェスタ」のプログラムはさまざま！

骨盤体操でのびのび身体を動かすママたち。マタニティヨガやベビーヨガ、バランスボール、リトミック、ふれあい遊び、だっこ紐講座、ハンドマッサージの施術ブースなど…多彩なプログラムを楽しめるチャンス。ママやその家族だけでなく、ママになりたい女性やカップルが来場するなど、認知度が上がっています。

冨永愛さんが宮城県の助産師を訪問

モデル・タレントの冨永愛ジョイセフ・アンバサダー（当時）が2013年５月、宮城県仙台市の「とも子助産院」を訪問。宮城県助産師会に所属する８人の助産師から、震災後２年が経過したそれぞれの地区の状況や活動などについてヒアリングしました。

震災をきっかけに
助産師の存在が
見直され始めました

武者文子さん
助産院「まんまはうす」主宰
宮城県仙台市太白区
http://www.geocities.jp/mamma_house/

伊藤朋子さん
「とも子助産院」主宰
宮城県仙台市泉区
http://tomo-j.jp/

岩佐 あけみさん
「母乳育児室 マミーぱい×２」主宰
宮城県亘理郡山元町
http://tohokumama.org/mamypaipai/

現場の声

助産師さんが思うこと

ジョイセフの東北支援は、現地の助産師さんの存在なくして語れません。
被災地の最前線でママを支えてきた３人に、
宮城県における“助産師の今”について伺いました。

――――今日はベテラン助産師さん３人に集まっていただきました。武者さんと伊藤さんは仙台市で助産院を、岩佐さんは山元町で出張スタイルの母乳育児室を開かれています。「じょさんしサロン」は気軽に寄ってほしいという想いで名付けたんですよね？

武者さん（以下、武） そうです。ただ、「サロン」といっても何をする場所なのかが分かりづらいので、まずは手遊びの会やベビーマッサージ教室をきっかけ作りにしました。「無料の母乳相談が気軽に話せて良かった」とあるママに言われたのですが、サロンでママ同士が話して友達になり、**ママのコミュニティができて、助産師と繋がって…と自然に人が繋がっていきました。**

伊藤さん 個人でやっている私たち開業組も横の繋がりができました。支援を通して病院勤務の助産師とも仲間になり、結果的に**助産師の組織力が強化**されたと思います。

岩佐さん（以下、岩） 助産師会のメンバーも年々増えています。４～５年で20人増、特に30代など若い人が入会しており、「じょさんしフェスタ」の楽しそうな雰囲気を見て、仲間になりたいと思うみたい。

――――なるほど。その「じょさんしフェスタ」はどうですか？

岩 とても評判が良いです。エクササイズや沐浴講座、育児・母乳相談など、**体験講座を気軽に楽しみながら助産師の存在を知ってもらえる場**になっています。３回目にあたる2015年にはパパの割合が増えたり、プレママや子どもがまだいないカップルも来場したりと人が集まるイベントに成長しました。地域のママと直接触れ合えるのが助産師の良さですから、気軽に育児相談できる存在としてもっと浸透していってほしいです。

武 あとは、サロン活動をみて行政が動き出しているのが、支援が繋げてくれた大きな成果。母子健診のチェック欄に「赤ちゃんが生まれてから助産師のケアを受けましたか？」という項目ができたり、福祉避難所の運営を委託する災害協定オファーが来たり。国や自治体が助産師について考え始めており、まさに今、**助産師の良さが見直されている時**だと実感しています。

支援5 リフレッシュ・ママクラス

さまざまなストレスを抱えながら子育てをするママが、未来に向かって「生きる力」「育てる力」を取り戻す心的支援プログラム。共通のテーマについて考え、発表することで、自分の心の内を見つめ直して、仲間と共有し、被災で傷ついた「自己効力感」（“できる”という自信）、「自尊感情」（自分を大切に思う気持ち）、「自己決定力」（自分の人生を自分で決める力）を取り戻し、夢を持って子育てできることを目指します。東北３県の18市町村と連携、乳幼児を持つ被災した約500人のママを対象に、２回ずつ計36回のクラスを開きました。

また、クラスの地域定着を目指し、「ファシリテーター養成講座」を2013年７月に郡山で開催、22人の福島の保健師が参加しました。

- プロジェクト期間 ・・・ 2012年4月～2015年3月（3年間）
- 対象地域 ・・・・・・・・ 岩手県、宮城県、福島県（全18市町村）
- 支援対象 ・・・・・・・・ 震災被災・避難者となった乳幼児を持つ母親たち
- 活動目的 ・・・・・・・・ 乳幼児を持つ被災した母親たちが「生きる力」、「育てる力」を取り戻し、その地域に住み夢を持って子育てをしていけるよう支援する。また、母親たちが同じ地域に住み、共感できる仲間を持つことでコミュニティの子育て力を培う
- 連携機関 ・・・・・・・・ 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門、母子保健推進会議、岩手県、宮城県、福島県、各県母子保健担当主管課、厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課

自分自身と向き合う

「自分発見エンカウンター」では大切なもの、憧れの人、夢をテーマに「自分自身の力」に気づけるよう導きました。

お互いのよい所を見つけほめ合う「ほめほめシャワー」

ペアになりお互いをほめ合う作業では、普段なかなかほめられる機会がないママたちが「ほめられること」「ほめること」の楽しさを体験。照れながらうれし涙をこぼす人も。

「自分の夢と向き合う」エクササイズ

自分の夢を絵に表し、グループで発表・共有します。「ママとしてではなく、一人の人間、女性としての夢が見えるようになった」とうれしそうな人も。

まずは「はじめまして」から

「はじまして、どうぞよろしく」のエクササイズでは、初めて会ったママたちと音楽に合わせて動きながらアイスブレイク。

「ラブレター」にみる心の変化

参加したママの多くにとって、自分に戻り自分を見つめる作業は久しぶり。
毎回クラスの最後に書く自分自身へのラブレターには、前向きな言葉が綴られており、２日目のプログラムが終わった時の顔は晴れやかなものでした。

「未来の私へ」

未来の私は幸せですか？　笑っていますか？　家族みんな元気ですか？
毎日忙しいだろうけど、あなたは家族に愛されているんだよ。きっと大丈夫。
みんなで一緒に乗り越えられるよ。自分を見失わないで自分らしく生きてね。
そして自分を好きになって。そんなあなたを、みんなが好きだから。

「きょうの私へ」

みんなに私のよい所を見つけてもらえて、気持ちが楽になってよかったね。多分、毎日気を張っていて、涙を見せることが下手になっていたのが、みんなと時間を共有することで、肩の力が抜けたんだね。これからは、自分で自分を認めて、もっと自分らしく楽に生きてもいいんじゃないかな。家族のこととか色々あるけど、たまには自分のことを優先して、泣きたいときには思い切り泣いて生きていこうね。

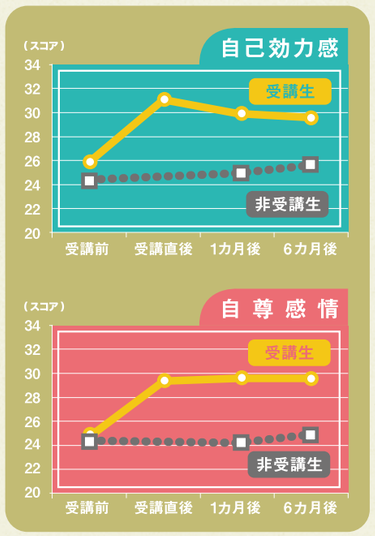
「きょうのみんなへ」

初めて会った方でしたが、私が大好きで尊敬している母の話を聴いてくれてありがとう。生きていると、くじけそうになったり、つらいこともたくさんあるけど、自分は一人じゃない、家族や、初めて会った人でも心が通じ合える人がいると思うと、なんか頑張れる気がします。また来週会えることを楽しみにしています。

「未来のみんなへ」

いろいろな選択をして、今に至ったことと思います。正しい選択だったんだろうかと悩むこともあると思います。でも、あなただけでなく、皆が同じように悩み生きています。１人だと思わないで、皆でこれからも一緒に頑張りましょう！

◎数値にみる受講の効果



クラスの受講前後に自己記入式で測定。「自己効力感」「自尊感情」の数値が受講直後から上昇し、半年後もその数値は持続しています。

災害時におけるママの心のケア支援事業としてその本質とノウハウが、今後も続いていく復興支援に繋がるであろうという思いのもと、実践マニュアルを作成しました。

支援 6

ジョイセフ・カレッジ TOHOKU

「ジョイセフ・カレッジ TOHOKU」はこれから東北でリーダーシップを取っていける女性、東北を元気にしていく女性を育成することを目的に創られたプログラムです。各界の魅力的な女性パイオニアを講師陣に迎え、自分を知り、自分との付き合い方を学び、自分の考えを東北のために行動に移せる女性を育てることを目的に開講しました。

計 11 回の講座は 2013 年秋に修了式を迎え、33 人の女性リーダーたちが東北の未来へ向かって羽ばたきました。また、修了生同士の交流も活発に行われています。

修了式＆「ドリーム・アクション・プラン」発表

学長である冨永愛ジョイセフ・アンバサダー（当時）が修了証書を授与。式後には受講生一人ひとりが受講した中で悩み、考え、感じたことを集結させ、これからの東北を元気にするための「ドリーム・アクション・プラン」を発表。

- プロジェクト期間 ・・・ 2013年7月～11月（全11回）
- 対象地域 ・・・・・・・・ 宮城県仙台市
- 受講者数 ・・・・・・・・ 33人
- 活動目的 ・・・・・・・・ 東北を元気にしていくために行動に移すことができる、精神的に他の人々に良い影響を与える、リーダーシップを取ることができる女性を育成する

講師名と名フレーズ

- ★ **大葉ナナコさん** ―― 「自分が生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」
- ★ **ジョイセフ　浅村里紗** ―― 「東北を元気にするためには、まず自分を知り、社会を知る」
- ★ **村上弘子さん、高橋里奈さん** 「人との繋がりを作り行動していけば、結果は後からついてくる」
- ★ **向田麻衣さん** ―― 「何もないところから 1 を生みだすには、とにかく動くしかない」
- ★ **遠藤幹子さん、ユーゴさん** ― 「野望はどんどん口に出してください」
- ★ **ユール洋子さん** ―― 「自分を愛することは、自分に果てなく好奇心を持ってあげること」
- ★ **堂珍敦子さん** ―― 「自分のやりたいことを話していると、よいめぐり合わせがやってくる」
- ★ **青木 愛さん** ―― 「“困った”をチャンスに変える」

開校式＆
ジョイセフ・ワークショップ

開校式後、自分のスキルをどう活かすかを考える「ツリーエクササイズ」や人生を客観的に振り返る「ライフライン」のワークショップを行いました。

“困った”をチャンスに変える
ビジネススキーム

青木 愛さんはマタニティウェアの会社「ヴィリーナジャパン」の代表。社長兼バイヤーとしてフルタイムで働く３児のママとして、仕事と家庭・育児のバランスなどを親身にアドバイス。

「やりたい」という
強い想いを原動力に起業する

化粧品の力で人身取引の被害にあった女性のエンパワーメントを行う「Coffret Project」を立ち上げた向田麻衣さん。強い想いから起業までの経緯を語ってくれました。

「野望会議」
「チーム・ビルディング」の
ワークショップ

「野望は口に出して」という遠藤幹子さん＆ユーゴさんの言葉に、いざ「野望会議」を決行！ また、チーム形成を学ぶワークショップなども行いました。

“動きだした受講生たち”

エステサロンを開いた人、キャリア・カウンセラーとして
独立・起業した人、起業するために準備中の人…
夢に向けて邁進している修了生たちから、２人の近況をご紹介します。

NPO を立ち上げ、イベントを開催

毎夏に開催し 1000 人が参加する「平日夕涼みフェス」では実行委員長として挨拶。無添加のパン作りを通した環境や食に関する取り組みなども行っています。

主婦の目線、
ママのパワーを
震災復興に生かしたい

NPO 法人「i-くさのねプロジェクト」代表

砂子啓子さん

砂子さんは震災直後、「宮城県に住む一般主婦の目線から情報を発信する」をテーマに NPO を一人で立ち上げました。平日昼間にライブやミニシネマ、買い物などを楽しめるイベント「平日フェス」や、無添加石けんの普及、エネルギーシフトなどの持続可能でシンプルな「暮らしの見直し活動」など、主婦の立場に立ったさまざまな企画・運営を行っています。

主婦業と並行しながら活躍する彼女ですが、受講前は「自信もキャリアもない主婦だった」と意外な言葉。「社会で活躍したり起業する女性は遠い存在でした。でも世の中を変えたい一心で自分に責任を持ち発信・活動している講師の方々を拝見し、偏見だったと気付いて。受講生も含めて多くの女性に会い、私も堂々と表に出ていいんだと勇気付けられました。夜や土日に参加しづらいママが楽しめる場をと発表した『平日フェスを行う』のプランが、今に繋がっているんです」。

人気イベントに成長した「平日フェス」が高く評価され、仙台市から助成金の補助が下り、市長との面談も果たしました。さらに 2015 年 1 月には宮城野区の代表としてノルウェー視察にも参加。砂子さんの躍進はまだまだ続きます。

PROFILE　夫、7 歳と 9 歳のお子さんの 4 人暮らし。佐賀県出身。東京や千葉で暮らしたのち、夫の転勤により仙台へ越して 12 年。特技は剣道。

http://www.kusapro.com/

カフェ開業に向けて上京 & 修業

2015 年 5 月から「(株) ミカフェート」にてアルバイトとして勤務。「コーヒーの最前線を目の当たりにできる贅沢な環境です」と忙しくも充実した様子。

生産国と繋がった
本格的なコーヒーで
東北を活気づけたい！

「ミカフェート」スタッフ

大坂裕子さん

仙台と石巻を拠点に、人生をあゆんできた大坂さん。震災後、自分を育ててくれた被災地に向けて何かしたい！　と思っていた中、「よいきっかけになれば」と受講を決意しました。

講義で学んだのは、「思っていることを口にすることの大切さ」。「恥ずかしいし否定されるのではと怖かったけれど、言葉にしてみると助けてくれる仲間が増えていきました。また、『自分とポジティブに対話する』というユーゴさんの言葉を受け、心を明るく切り替える方法を学んだことも収穫でした」。

13 回の講義に無遅刻・無欠席。修了式では地元の物産を使った発信力のあるおみやげの提案と、震災後にため込んだ思いを吐き出せる場所や雇用を考え、カフェ開業の夢を発表しました。そんなある日、東京のコーヒー専門店で修業するチャンスが到来。夫の後押しもあり一念発起、単身上京し、コーヒーや接客・経営について懸命に学び 9 カ月が経ちました。

そしてこの春、仙台へ。「今後は地元でフードの勉強と開業に向けた人脈作りに励みます。数年以内に開業するつもりです」。優しさと芯の強さを兼ね備えた彼女だからこそ、たくさんの女性を癒す場をきっと作れるはず。大坂さん、頑張って‼

PROFILE　生まれも育ちも石巻。趣味はコーヒー探訪と美術館めぐり。バイオリンとモータースポーツのスタッフも長年継続中。夫と大学生の息子さんの 3 人家族。

ミカフェート　http://www.mi-cafeto.com/

支援7 MOM meets MOM in TOHOKU

フランスのコスメティックブランド「ロクシタン」よりご協力をいただき、ママとママが出会い、共感し、繋がっていく場「マム・ミーツ・マム in 東北」を開催。モデルの堂珍敦子さん、アロマセラピストの大橋マキさんをゲストに招き、全３回のイベントに 236 人の親子が参加しました。

トークショーに続くワークショップでは、2004 年に被災しながらも懸命に立ち上がってきたインドネシア・アチェ州のママたちからの応援メッセージを受けて、返信カードを作成。最後は「ロクシタン」のハンドマッサージレッスンでアロマに癒されながら、同じ地域のママたちとも繋がり、笑顔あふれる温かい交流会になりました。

- プロジェクト期間 ・・・ 2013年4月～2014年3月
- 対象地域 ・・・・・・・・ 岩手県釜石市、宮城県仙台市、福島県郡山市
- 参加者数 ・・・・・・・・ 236人／全３回
- 活動目的 ・・・・・・・・ 被災した母親たちが、「母としても輝いている女性」のロールモデルである著名人ママや、同じ地域に住む母親同士で交流し、また過去（2004 年）に受けた壊滅的な地震・津波被害から立ち直りつつあるインドネシア・アチェ州のママとメッセージを交換することで、孤立感とストレスの軽減、自己効力感、自己肯定感の回復を図り、最終的には個人の繋がりと人生に肯定的な視点の再構築に繋げる
- 協力機関等 ・・・・・・ 開催地域の母親、助産師会、子育て支援NPO等
- 協賛 ・・・・・・・・・・ ロクシタンジャポン（株）

第１回 釜石

堂珍敦子さん（モデル）

ママ 34 人、子ども 42 人の 76 人が一堂に会し、大賑わい。堂珍さんによる５児の出産・子育てトークに参加者は興味津々。子育てしながらの社会参加やスキルアップについて憧れの人と語り合い、「刺激になった」「一人じゃないんだと思った」とママたちも元気に。

第２回 仙台
第３回 郡山

大橋マキさん（アロマセラピスト）

仙台は 95 人、郡山は 65 人の親子が参加。２児を子育て中の大橋さんのママトークやカード作りのワークショップを満喫した 90 分。毎回好評を博したハンドマッサージレッスンでは、アロマに癒されながらママ同士のおしゃべりも弾んでいました。「大橋さんの子育てがとても参考になった」「リフレッシュできた」など喜びの声が上がりました。

支援8 東北支援の経験をシェアする

（第３回 国連防災世界会議 パブリック・フォーラム「女性と防災」
連続シンポジウム「災害と女の子たち ～ガールズ防災会議～」）

2015 年３月、仙台市で開催された「国連防災世界会議」。「女性と防災」をテーマにしたパブリックフォーラムにおいて、国内外の複数の団体と共に「災害と女の子たち～ガールズ防災会議～」を開催しました。東日本大震災や海外での災害支援の経験を元に、災害時における若い女性の脆弱性を明らかにし、彼女たちのレジリエンス（回復力、立ち直る力）を上げるための提言を行いました。

- 開催日 ・・・・・・・・・ 2015年3月17日
- 開催地 ・・・・・・・・・ 宮城県仙台市
- 参加者数 ・・・・・・・・ 約200人
- 開催趣旨 ・・・・・・・・ 災害時に若い女性の置かれる現状を明らかにすると共に、政策提言を行う
- 主催 ・・・・・・・・・・ 仙台市、せんだい男女共同参画財団
- 共催 ・・・・・・・・・・ Gender Action Platform、プラン・ジャパン、オックスファム・ジャパン、ジョイセフ
- 協力 ・・・・・・・・・・ IPPF等

「女性と防災」をテーマにディスカッション

「女の子たちの声が、世界の未来を創る」をテーマに、いかにしてガールズの声を聴き、活かすべきかを議論しました。

「世界防災閣僚会議 in 東北」ではパネルを展示

2012 年７月に仙台で開かれた大会のサイドイベントでは、パネルを掲出すると共に「女性支援キット」を展示。

パブリックフォーラムでは約 200 名が傍聴

被災４年目を迎えた仙台で開かれた第３回大会は、日本史上最大級の国連関係の国際会議となりました。

ママたち（受益者）の声

たくさんの方々からの支援を受けて、
被災地のママたちから寄せられた
「ありがとう！」の気持ちや言葉……。
ほんの一部をご紹介します。

"義援金「ケショ」を受け取られた8月出産のママへ"と
バースディプレゼント 受け取りました。まさか、
こんな素敵な贈り物をいただけると思ってもみなかったので、とても感動しました。おかげさまで我が子も
無事一才をむかえることができました。本当にあたたかい
ご支援、感謝してもしきれません。今回の震災では
自然の厳しさを思い知り、また人間の支えあう大きな
力を、本当に肌で感じました。この感謝の気持ちを
忘れずにこれからも家族で力をあわせて生きていこうと
思います。本当にありがとうございました

（宮城県・Nさん）

先日はクリスマスプレゼント ありがとうございました。突然のプレゼントで
びっくりなのとうれしさで…正直 娘より私の方が喜んでいました。と
同時に、何か張りつめていたものが切れ 涙が止まりませんでした。
これなに長く続くご支援にうれしく思うと同時に、あまり考えな
いようにしていた まだ帰れぬ故郷への思い。原発事故で
自宅に帰ることを許されず、知らぬ土地での出産、育児、生活、
離ればなれになった家族。心に重くのしかかる不安は、たえることは
ありません。それでも、娘の 寝顔、笑顔にいやされ、私が
頑張らないと！と言いきかせ、必死で毎日の日々を送っています。
世間からだいだい、うすれてきた原発事故。ジョイセフさんからのご支援は
忘れられてなかったんだぁ と感じられる時です。放射能は、一瞬で
私達の生活をうばい、家も自然もすべて故郷をうばってしまいました。
だからといって、簡単に故郷をすて 新しい土地でいなんても思いません。
そんな簡単に気持ちは、きり変えれません。何十年もそこで育った
土地をすてることはできません。一瞬で生活をうばってしまうようなもの
は、いらないのです。あと何年、この生活に たえられるでしょうか。
娘の将来を考えると故郷はすてるべき。でも、私が故郷での生活が
すてられない。答えがでない。悩みにいつも どこか心に影が
できてしまいます。
いつか故郷へ帰れる希望をすてずに生活をしていこうと思います。
この思いが 心の支えになっているのかもしれません。

（東京都・Tさん）

本日、素敵なお祝いが届きました。
思わず涙があふれました。
本当にありがとうございました。
クレヨンセット、CD、絵本、涙々で何度も
拝見させていただきました。
義援金、ママセット、そして今回のプレゼント
私は、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
震災で、家、故郷、大切な人…… たくさんの物を
失いましたが、たくさんの人々が応援して
下さっているという事も 身にしみて感じています。

（宮城県・Sさん）

出産してから1年が経ち思いもよらない
プレゼントが届き驚きと嬉しさでいっぱいです。
今日は、その気持ちを伝えたく手紙を書きました。
被災にあい、これからどうしたら良いか悩んでいる
時にジョイセフの事を知りました。ジョイセフのおかげで
義援金や女性支援セットなど頂き、色々な面で
助かり、心から感謝致しております。
又、先の生活の見通しが立たない状況で
不安や心配は、今もありますが、温かいお言葉を
頂き少しでも元の生活を取り戻せるよう改めて
頑張ろうと思いました。
ありがとうございます。（Sさん）

昨日自宅にお届け物が届きました。
「何だろ？！誰からだろ？！」と不思議に思い箱から受けとると…
ジョイセフさんからでした。ファーストバースデーギフト…
とてもおどろきました。「え？！何で？！」これが率直な感想です。
3男（けたなる）と一緒にワクワクしながら箱をあけてみました。
中身もこれから使わせるのにとても助かる物ばかりでした。ありがとうございます。
まさかのサプライズ？！にとてもうれしくなりました。
そして、その中に入っていた「ママ」と言う本とメッセージを読んで
あの日（震災の日）の事を少し思い出しました。
あの時、この子（3男）は私のお腹の中にいました。
でも、あの時あの時点では本当はまだわかっていなかったのです。
もしかしたら？！と言ううたがいだけで…
調べてみようかどうしようか迷っている時にあの震災はおこりました。
あの時上2人の子供を連れ高台にある主人の親せきの家にとなんしました。
その後主人の友人の家とおせわになり、いまであの状況が続くのか
わからなかったので子供の為に食料等を集めました。
震災の次の日から空きそうなお店へ行き7～8時間まつかえるだけの物
をかい重い荷物をもって友人宅までのおよそ4kmの道のりをおぶってし
っかりと私のおなかにいてくれた思う!!
ありがとう!! 1才のおたんじょうびおめでとう!!
そんな事を思い出しました。ジョイセフさんをはじめいろいろなんが
おうえんしてくれているので絶対に負けません!!
本当にありがとうございます。

（Iさん）

昨日、ジョイセフ様よりプレゼントが届きました！
本当に思ってもいなかった長男への初1歳記念
のサプライズに驚くと共に大変感謝しています。
実は長男が、誕生日を目前にして、病気
にかかってしまい、現在日赤に入院中です。
一週間の高熱が続き、昨日ようやく容体が
安定し、一安心して自宅へ一人荷物を取りに
戻った所、ちょうど届いたのがこのプレゼントで、
早速あけてみた所、中に入っていた、「ママ」という
本…。途中で涙があふれて止まりませんでした。
本当にこの1年の子育てを本にしてくれた様な
共感出来る素晴らしい内容の本に感激しました。

（宮城県・Kさん）

この度は、「3月生まれの子どもたちに」ということで、「おえかきセット」
やら本などありがとうございました。まさか、この様に続けて
プレゼントが届くとは思いもしませんでしたので、とても感激しました。また、ジョイセフ様からのメッセージを読み、様々な思いで
涙があふれました。
（中略）子どもたちの成長を支えてくださっている「ジョイセフ様」
をはじめ、全国の様々なかたに感謝の気持ちでいっぱいです。
顔も分からぬ遠方の私たちに支援の手をさしのべていただ
いていて、気持ちも温かくなり、一人じゃないんだと勇気づけられ
ております。本当にありがとうございました。

（岩手県・Cさん）

お送りいただいた手紙から一部を抜粋しました。

つながる　支援の輪

「困った時はお互いさま」

ジョイセフが支援を受けた国／地域

ジョイセフが
支援に特に力を入れている国

日本と世界の国々が、お互いを支援し合える関係に

「女性の命と健康を守る」をスローガンに、ジョイセフは 1968 年の設立以来、世界 32 カ国で支援活動を行ってきました。

2011 年の東日本大震災に対して、いち早く支援の手を差し伸べてくれたのは海外の国々でした。21 の支援国の中には、アメリカやヨーロッパなどの先進国はもとより、ジョイセフがこれまでに支援してきたアジアやアフリカ、アフガニスタンといった開発途上国も数多く、「東北のママたちのために役立ててほしい」と精一杯の援助をしてくれました。

2011 年、日本は世界中で最も支援を受けた国になりました。

スウェーデン
イギリス
ベルギー
ドイツ
アイルランド
スイス
フランス
イタリア
ギリシャ
トルコ
アフガニスタン
中華人民共和国
香港
ベトナム
タイ
マレーシア
オーストラリア
ニュージーランド
カナダ
アメリカ合衆国
メキシコ

ネパール

国内外の緊急支援から取り残された女性と母子を支援

2015 年に起きた未曾有の大地震。厳しい冬を越すための女性支援キットの配付活動（昨年秋）に続き、被害の大きかった 14 郡の中で特に妊産婦人口を多く抱える地域において、巡回診療サービスの提供を行っています。地震によるトラウマやジェンダーに基づく暴力に関するカウンセリング等に重点を置いています。

© Miki Tokairin / JOICFP

ザンビア

ザンビアから東北へ祈りを込めて

2011 年 6 月、ジョイセフの支援によるマタニティハウスが完成。ザンビアのママたちから東日本大震災で被災したママたちへ、「HOPE for Mothers」というメッセージが届きました。

アチェ州（インドネシア）

アチェと東北の女性が災害の経験を共有

2004 年に発生した大地震による津波で甚大な被害を受けた、インドネシアのアチェ州。2013 年 2 月には「ジョイセフ・カレッジ TOHOKU」（P9）を修了した東北の女性 3 人がアチェを訪ね、津波から 9 年が経過した町の復興の様子、現地のママたちとの交流を通して今後の東北の復興に向けたヒントを得ました。復興の鍵として女性たちが大きく関わっていることをお互いに学び合う機会となりました。

「困ったときはお互いさま」が
私たちの合い言葉です

～５年間の支援活動を振り返って～

ジョイセフが学んだこと

ジョイセフ代表理事　石井澄江

海外で培った支援ノウハウを、国内支援に活かす

「やらなければ、後悔する」。3.11 の直後、頭に浮かんだ言葉です。当時ジョイセフには国内支援の経験はありませんでしたが、目の前に困っているママと子どもがいれば世界も日本も関係ありません。「困ったときはお互いさま」を合い言葉に、国際協力 NGO だからこそ可能な支援を行ってきました。

多くの人が身を寄せる避難所から最初にいなくなったのは母子です。ママと子どもがどこに避難していて、何を本当に必要としているのか？　状況を正確に把握しニーズに沿った支援を行うため、被災地および全国の助産師会と連携し、避難所ルートではフォローしきれない母子へも適切に支援できるよう体制を整えました。このように既存の組織を使って現地でネットワークを作るノウハウは、長年の海外支援活動で培ったものであり、ジョイセフの DNA にしみついています。

物資支援のほか、2403 人の被災産婦の口座に直接お振り込みした「ケショ（義援金）」も大きな反響を呼びました。そして支援内容は次第に「もの」から「心のケア」に変わっていきました。心のケアを行う場を作り、地元の人たちによる継続可能なコミュニティ作りのサポートに注力しました。

自分のことを後回しにして厳しい現実で頑張っているママたちを、一度でも笑顔にできたら…一歩でも前を向けるお手伝いができたなら…と願う 5 年間でした。東北支援プロジェクトは 2016 年 3 月で終了を迎えますが、ジョイセフはこれからも日本における被災地支援のあり方を模索し続けます。

POINT

1. 現地のネットワーク作りなど、海外で培った支援ノウハウを国内に活かす
2. 地元の人たちによる「コミュニティ」を側面支援し、自立発展型支援活動を目指す
3. 「1 対 1」のきめ細やかな支援など、日本らしい被災地支援のあり方を考える
4. 被災者の自尊心を大切にする支援方法に徹する

東北被災者支援のため、日本全国はもとより世界各地の個人・企業・団体のみなさまよりジョイセフに支援が寄せられました。ご支援をいただいた企業・団体のみなさまの一部をご紹介し、改めて感謝の意をお伝えします。

ご寄附をいただいた企業・団体（五十音順）

(株)アイ・ビー・アイ
(株)赤ちゃん本舗
(株)アクロ
(株)アンテプリマジャパン
EBSディーリングリソーシスジャパン(株)
インフォレスト(株)
ヴィリーナジャパン(株)
WOMEN'S GROUP OF ZURICH（スイス）
エキサイト(株)
LVJグループ(株)ロエベジャパンカンパニー
〈現:LVMHファッション・グループ・ジャパン(株)ロエベジャパン〉
(特活)オックスファム・ジャパン
(株)オフィスマレン
金子レディースクリニック
関東興業(株)
(株)キアゲン
(株)京橋千疋屋
(株)銀座千疋屋
(株)クオカプランニング
(株)グッチグループジャパン
グロッセ・ジャパン(株)
国際家族計画連盟 IPPF（英国）
国連人口基金 UNFPA（英国）
(株)サニクリーン
(株)GMPインターナショナル
JYJ FAN SITE Eternal Sky JAPAN
資生堂販売(株)〈現:資生堂ジャパン(株)〉
(株)集英社
スターバックスコーヒージャパン(株)
(株)生活総合サービス
(株)セールスフォース・ドットコム
(株)千疋屋総本店
(株)そごう・西武
(財)ソニー音楽芸術振興会〈現:(公財)ソニー音楽財団〉
ダミアーニ・ジャパン(株)
中国人口福利基金会（中国）
(株)ナチュラルサイエンス
(社)日本マタニティフィットネス協会
ニューヨーク日系人会（米国）
(株)ハースト婦人画報社
HEARTS BRIDGE
パッカード財団（米国）
(株)ハーレクイン〈現:(株)ハーパーコリンズ・ジャパン〉
P&Gジャパン(株)
(株)ファーストリテイリング〈(株)ユニクロ〉
(株)ベネッセコーポレーション
ボートレース江戸川アートミュージアム〈関東興業(株)〉
マリエン薬局 自然療法ショップ
ミキグループ全国代理店
三菱樹脂(株)
(社)ランガール
リシュモンジャパン(株)
ロクシタンジャポン(株)

物資をご支援いただいた企業・団体（五十音順）

(株)赤ちゃん本舗
浅草着物工房
味の素(株)
アップリカ・チルドレンズプロダクツ(株)
アトリエファブル
アメジスト大衛(株)
伊原繊維(株)
エッセリーニ・ジャパン
(株)エバメール化粧品
(株)エンジェリーベ
(株)偕成社
クラランス(株)
(株)グランまま社
コンビ(株)
(株)SAKURA art
(株)サン・アート
(株)GMPインターナショナル
G.P.J（株）
(株)集英社
自宅文庫 kodomiru
(株)小学館集英社プロダクション
(株)スウィートマミー
セガサミーホールディングス(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
(株)ダッドウェイ
タビオ(株)
(公社)誕生学協会
(株)チーム・オースリー
(株)ティニースプーン
(株)ティプア
天然酵母パン＆カフェ ファミリエ オーガニックバース
トゥータ.(touta.)
トリンプ・インターナショナル・ジャパン(株)
(株)ナチュラルサイエンス
ニシキ(株)
布ナプキン専門店ジュランジェ
(株)ハーバー研究所
(株)バルビゾン
P＆Gジャパン(株)
ビジョンウィル(株)
(株)ファーストリテイリング〈(株)ユニクロ〉
(株)ファッションウォーカー〈現:(株)ファッション・コ・ラボ〉
(株)ベネッセコーポレーション
三菱樹脂(株)
(株)ミレニオ
メドライン・インターナショナル・ジャパン(株)
(有)モーハウス
ユニ・チャーム(株)
respect & responsibility〈(株)バ・ド・トロワ インターナショナル〉
(有)レラック
和光堂(株)

東北被災者支援 収支報告（2011年3月～2016年3月末日）

寄附金・支援金・チャリティイベント等による事業活動収入

2011年度（2011年3月11日～2012年3月31日）	235,318,618円
2012年度	27,975,503円
2013年度	11,713,577円
2014年度	5,206,796円
2015年度	2,011,964円
事業活動収入計	**282,226,458円**

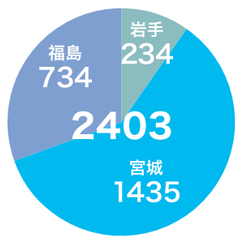
事業活動支出

東北の女性、妊産婦、赤ちゃんのための緊急支援物資配給	38,256,968円
自治体が実施する乳幼児健診に必要な資機材教材の支援	8,881,204円
ケショの給付（2403人分,振込手数料964,946円含む）	121,114,946円
ファースト・バースデーギフト、クリスマス・ギフトの寄贈	15,919,990円
家族計画サービス実施	12,311,057円
助産師支援事業	32,976,117円
リフレッシュ・ママクラス事業	31,256,278円
ジョイセフ・カレッジTOHOKU／MOM meets MOM in TOHOKU など運営	9,988,768円
第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラム共催	664,700円
被災者支援事業 第三者評価委託	3,431,578円
東北被災者支援に関連する広報・報告業務	3,088,182円
事業活動支出計	**277,889,788円**

＊管理費について：事業活動支出の内には、平均15%の管理費が含まれています。ただし「ケショの給付」活動には管理費は含まれません。

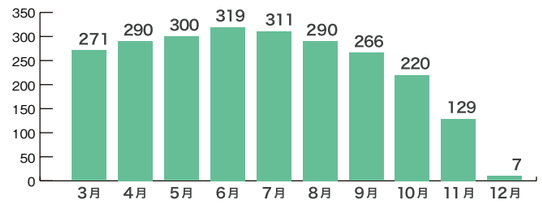
＊平成28年3月31日の決算で4,336,670円の残金がありました。これは引き続きジョイセフの公益目的事業に活用いたします。今後ともご支援とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

ケショ（義援金）給付報告（2011年7月1日～12月27日）



県別支給者数

条件別支給者数
※ 警戒区域内で全壊1、半壊1



出産月別支給者数

ジョイセフ
JOICFP
途上国の妊産婦と女性を守る

公益財団法人 ジョイセフ
東日本大震災 被災者支援
活動レポート

2016年3月1日発行
発行人：鈴木良一

〒162-0843
東京都新宿区市谷田町 1-10
保健会館新館
TEL 03-3268-5875
FAX 03-3235-7090

https://www.joicfp.or.jp/jpn/

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固くお断りします。